

## 保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人まあれ愛恵会
施設名	大成たいよう保育園
報告者（役職）	元木 貴絵（園長）
住所・連絡先	さいたま市大宮区大成町 2-161-1
	☎ 048-778-8615
	E-mail info@oonari.marehoikuen.com

### ○タイトル（保育計画）

思い切り身体を動かして遊ぼう！ ～心と身体を育む保育～

### ○主な助成備品

レインボーフープセット・フープスタンド・なわとびポール  
アルミ製サッカーゴール・サンドウエイト・巧技台Bセット  
紙芝居舞台・大型絵本シアターワゴン・紙芝居（むかしばなし 第1集・おはなしがいっぱい・だいすき！ちいさないきもの・ひろがるせかい 第2集・びっくりおもしろかみしばい・ゆかいでおかしい世界の民話）

## 1. 保育計画策定の目的

大成たいよう保育園では、子どもたちの保育環境をより良くしていく為に、購入させて頂いた備品を使用した運動遊びや紙芝居の読み聞かせを取り入れました。80名の0歳児から5歳児の異なる年齢の子どもたちが、日々保育園で生活をする中で、活動スペースはある程度限られています。しかし、身体の発達が著しい乳幼児期だからこそ、毎日の保育の中で、活動場所や天候に左右されずに運動できる機会を確保できるよう、備品を選択しました。運動遊びの内容もある程度限られたものを行っていた為、年齢や発達に制限が無く、さらに工夫することにより活動の幅が広がるものを取り入れました。また、それぞれの発達段階や興味・関心に合った遊びを展開できるよう、年齢別のクラスに合わせた計画を策定し実践しました。

## 2. 具体的な実施内容

園庭のスペースを有効に使えるよう、サッカーゴールやフラフープ、なわとびポールはその日の活動クラス・人数に合わせて子どもの導線を意識して配置しました。幼児クラスの園児は、自分で備品を取り出せるよう、フープスタンドを活動前に取り出し易い場所に出すなど、子どもたちが遊びを展開できるような工夫をしました。

また、雨天時は、保育室の可動式ロッカーを移動し、広いスペースを確保した上で、巧技台を使用した様々な運動遊びを行いました。子どもたちが初めて使用する際は、親しみのある滑り台から始め、徐々に平均台渡り、ぶら下がりなど、年齢に合わせて難易度を上げていきました。また、以前は絵本の読み聞かせを行っていた主活動の前や、給食前、午睡前時間に、紙芝居の読み聞かせを取り入れました。そして、異年齢と一緒に遊ぶ合同保育の時間にも大人数でも落ち着いて楽しめるよう、幅広い年齢に合う紙芝居の読み聞かせを取り入れました。

### 3. その成果と評価

園庭遊びで使用できる備品は、子どもたちの活動の幅を広げ、以前よりも1つの活動に対して集中して取り組むようになりました。例えば、サッカーゴールを取り入れたことでは、以前はボールを思い思いの場所に蹴り、遊んでいましたが、ゴールという目的の場所が出来たことで、どのようにボールを蹴るとゴールに向かうのかを考えながら、繰り返しボールに触れる様子が見られるようになりました。また、ボールを蹴るだけでなく、ゴールキーパーを行う子もあり、平行遊びから集団遊びへの発展も見られました。



← 5歳児 園庭でサッカーを行う様子

それぞれのチームに分かれて遊ぶなど  
ルールも理解しながら遊んでいる

フラフープでは、子どもたちの柔軟な発想が育まれ、身体を使って輪を回そうとするだけでなく、乗り物に見立てたり、輪を上手く転がす様子や、縄跳びの様に飛ぶ遊びなど、様々な運動を促すものとなっていました。



↑ 2歳児 フラフープ使用

友達と電車ごっこを楽しむ



↑ 4歳児 フラフープ使用

繰り返し練習し、回せるようになる



↑ 5歳児 フラフープ

思い思いに並べ、跳んで遊ぶ

そして、室内での巧技台を使用した活動では、繰り返し取り組むうちに、子どもたちの様々な身体の動きを促すだけでなく、順番を待つことや、他児を応援する姿など、身体の発達のみならず、子どもたちの心情の成長も感じられました。



↑ 2歳児巧技台での運動遊び

順番を待つ子どもたちが並び、期待を高める姿もみられる



↑ 5歳児巧技台での運動遊び

難しい場面にも挑戦しようとする気持ちが芽生え、様々な身体の動きを習得する

また、紙芝居では舞台も使用しての読み聞かせに、子どもたちは絵本を見る時とは異なる、期待の高まりがありました。集中して物語を見ることで、心が落ち着き、自然と次の活動への移行もスムーズになりました。また、正しい姿勢で話を聞くという習慣も身についたことを感じました。

#### 4. 今後の課題と展望

様々な保育活動の備品を使用することで、保育者も子どもの発達に関する知識をより学ぶようになり、また子どもたちが生き生きと活動し沢山身体を動かすことで、安定した生活リズムの獲得にも繋がりました。今後の展望としては、子どもの活動の発展をより促せるような集団遊びの提案など、自由遊びだけでなくルールのある遊びなども、多く取り入れ、活動の幅を広げていきたいと思います。また、開園3年目となり、幼児クラスの人数も初年度より増加する為、大人数での遊びの工夫をより考え実践していきたいと考えています。

今回、備品購入の助成を頂き、子どもたちの保育園での活動や経験の幅を広げて頂いたこと、感謝申し上げます。ありがとうございました。

以上